



「楽しさ」と「食」
多文化交流の推進
を通じた

1. 地域協議会と「多文化共生」

「多文化共生」については一部の地域協議会で行事のチラシや案内文を多言語化して回覧するなどの取り組みがされてきましたが、「多文化共生」そのものをテーマとした活動は実施されてきませんでした。

一方で地域に目を向けると、日本と母国との文化や言葉の違いに加え、生活する上での細かいルールが地域

(自治会) 毎に異なっていたりするため、未だにごみの分別や騒音などに端を発するトラブルが解決できていない現状があります。

これらの課題はもちろん一朝一夕に解決できるものではありませんが、外国にルーツを持つ人も含め、地域全体で考えていく機会や体制を作っていくためにも、まずは外国にルーツを持つ人が地域の一員として、地域づくりに気軽に参加できるような土台づくりが必要だと思われます。



▲多言語化されたチラシ

2. 地域協議会に期待する役割

(1) 「楽しさ」で知る多文化

子どもたちは「遊び」や「楽しさ」を通して、言葉や文化の違いを越えて自然と交流を深めています。

地域でしばしば企画される「クリスマス会」なども、もとは外国の行事が定着したものであり、同じように外国の文化や行事に触れられる機会を設けていけば、子どもたちのみならず、親同士、あるいは世代間でも自然に多くの異文化に触れ、理解する機会が増えていくでしょう。

同じように、外国にルーツをもつ人たちにも日本の伝統行事の体験などを通して日本に対する理解や愛着を深めてもらうことで、将来的には「参加者」から主体的に関わる「参画者」になっていくことが期待されます。

■ 事業の例

外国にルーツを持つ児童・
生徒との意見交換会

【桃ヶ丘】



言葉や文化の
違いを超えて
楽しめるイベント



小学校区合同の
誕生日会



様々な国の行事や
家族のイベントを体験



(2) 「食」で知る多文化

「食」は毎日の生活の大きな要素であり、いろいろな国の料理を食べる機会も増えた今日、それらを紹介する炊き出しやグルメイベントなどはコミュニケーションのきっかけ作りに最適なものと言えます。

また、一部の地域協議会では「地域の畑づくり」に取り組まれており、こうした活動に外国にルーツを持つ人を含め地域全体で取り組むことで、「耕作」から「収穫」、「調理」といった過程を共に楽しみつつ、「食」を通して多文化を体験する機会の企画・参加へとスムーズに展開します。

■ 事業の例

地域の畑づくり/
週末ファーム

【一色】



収穫祭/
様々な国の
料理の炊き出し



with コロナでは...

基本的な感染対策について、多言語に翻訳して案内しておくとともに、屋内はもちろん、屋外でのイベントであっても参加者数に配慮し、密集／密接を避けながら、感染状況によってはオンラインでの開催に切り替えるなど、柔軟な対応ができるように事業計画を作成しておきましょう。
飲食を伴う場合でも持ち帰りにするなどの工夫で実施できます。

3. 関係団体

(1) 行政機関等

多文化共生の推進に関すること	多文化共生推進室 多文化共生係 (39-6527) 小牧市国際交流協会 (76-0905)
----------------	---

(2) 先進事例団体等

外国籍の子どものための言語や学習のサポート	一色コスモスサポート学習の会 にわたりの会 (https://www.niwatoris.org/)
食を通じた多文化交流	ラテン人ママの台所 一色ふれあい農園 (一色小学校区地域協議会)

その他、地域活動団体やボランティア団体の紹介・コーディネート等については、以下にお問い合わせいただくか、右記QRコードから検索いただけます。

【こまき市民交流テラス ワクティブこまき】

- ・住所 小牧3丁目555 ラピオビル2F
- ・電話 0568-48-6555
- ・URL <https://komakici.jp/>

【社会福祉協議会 ボランティアセンター】

- ・住所 小牧5丁目407 ふれあいセンター1F
- ・電話 0568-77-0636
- ・URL <https://komakive.jimdofree.com/>



▲ワクティブこまきホームページ内
「こまき団体情報ガイドブック」



▲ボランティアセンター